

「第3回」ブランディングボード実施報告書

2024年8月

[ブランディングボードの開催目的]

令和5年度末に決定した阿久根市の向かうべきブランドの方向性である「あなたの人生を抱きしめるまち」を実現するために、どんな施策が必要かを議論するのが【ブランディングボード（会議）】です。職員の有志が集まり、計5回の会議に加え、最終回に市長へのプレゼンテーションを行い、市内・市外の多くの方が“阿久根市のことを大好きになってもらう”ための具体的な施策を練り上げます。



阿久根市
AKUNE City



・PRODUCT'S・

株式会社博報堂プロダクツ

第一回：オリエンテーション・課題抽出 ←6/20.21 実施済み

第二回：課題に対してあるべき理想像抽出 ←7/16.17 実施済み

第三回：課題と理想像の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議 ←8/22.23 実施済み

第四回：具体的な方法論について現実的な方法を見出し、実現可能な手法を導く

第五回：実現までのロードマップ（工程表）作成と予算策定

第六回：市長へのプレゼンテーション

※必要なプロ人材（専門家）の招聘や、現場の視察（フィールドリサーチ）も適宜行う。

レポート①

「観光」ボード

第三回

(赤字が理想像、青字が具体策)

第三回「課題と理想像」の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

1：まちの見た目の寂しさ

a 駅前におしゃれなカフェがあって電車を待つ憩いの時が過ごせる。

↳ 駅前の場所を市として確保し、週末・祝日限定でPOP UPショップ（契約は期間限定店、普段いけないような有名店）を出店してもらう。

↳ 季節ごとにテーマが決まっている 例：「アイスクリーム」「ピザ」「焼酎」「肉」→出店しやすさを考慮

b シャッター街になっていた店とスモールビジネスをやりたい人とのマッチングがうまくいっている。新しいにぎわいが生まれている。

↳ チャレンジショップの地区を視察

↳ ボードメンバーの意識の中に具体的な絵を描く→地域おこし協力隊を含めてまちづくり専門部隊も編成し、チャレンジショップのある街の風景を実現

↳ シャッター街にリノベーションスクール（所有者が明らかな空き家/空き店舗）登場！

↳ 空き家/空き店舗を題材にして「やりたいことがある！」人を募集しリノベ専門家、金融、リース会社が集う。

↳ 空き店舗の情報を把握※空き家バンクに「空き店バンク」も！

↳ 賃貸又は購入でその都度やりたい人を募集する。

→ 市としては支援金にプラスして資材購入費（リノベ支援etc）も規制緩和、拡大支援する

↳ ウィンドウショッピングが出来る街並み演出がなされている。

↳ 魅力的な店が並んでいるので、まち歩き自体が楽しいコンテンツ！

場所：国道3号沿い「大丸」「本まち」「駅前」
市民（高校生・若者対象）に上記場所をテーマにワークショップ開催！
どのように生まれ変わったら素敵か？と
考えてもらう

2：賑わいコンテンツ不足

a 体験型イベントが阿久根では盛ん

阿久根に既にあるアクティビティなどの情報を集めて、マップなどにまとめて分かりやすく訴求

※現在は地域おこし協力隊がインスタグラムなどにアップしているが、市の観光サイト内のリンクから情報更新がされるように！

（焼物、ぼんたん狩り、タケノコ掘り、体験型マルシェ）→体験型

3：事業者の連携を深める必要性

↳ 施設同士で Recommend しあい、それが仕組み化されている。客は一つの施設に行けばお勧めをスムーズに巡ることができる。

第三回「課題と理想像」の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

4：戦略を練るための材料・資金不足

└観光に費やす財源はふるさと納税でザックザク！

5：観光資源の魅力化

└阿久根大島への行き方などが、簡単に分かる仕組みが良くできている（UI/UXが完璧！）

└「食」のおみやげはもちろんだが形に残る染物、焼物も土産として人気

└観光スポットでマニア向けイベントが多く開催され賑わっている。例）アニメ好き、コスプレ好き

└トウクトウが街中を走っていて映えている！

6：おもてなしレベルの向上

└親しみを感じる阿久根流おもてなしがあり、お客さん同士（地元の人）が気軽にコミュニケーションをとっている。

b└市内の飲食店ほぼ全店がGoogleビジネス（レビュー）で★4つ以上。しかも良いコメント、評価が多い！

└三つ星レストランシェフに講師に来てもらって、シェフセミナー開催！あなたもスターシェフになれる。みんな三つ星を目指そう！

7：宿泊施設不足

└宿泊のみならず、買い物、アクティビティ、アミューズメントetcが複合している有名な施設ができる（企業誘致成功！）

└企業誘致→リゾートホテルも！

c└宿泊施設は全て情報サイトに載っている。

└「観光サイト」に宿泊所が載っている。市として個々の宿泊事業者が予約システムや他社WEBサイトを作る費用を補助（観光DX補助金）

8：魅力的な施設不足

a└風テラスあくね内にcaféがあり、本をゆっくり読める。

└POP UPショップ、チャレンジショップを風テラス内に作って市民の人の事業チャンスを上げる（1-abの派生型）風テラスあくねをにぎやかにしたい！

└フォレストアドベンチャー施設もあるよ！アクティビティ最高！アウトレットモールもできた！

└三つ星レストランシェフが新しい店を開き予約が絶えない。

└イベントスペースがあって、阿久根でイベントをやりたい人が使える施設として人気で有名アーティスト自らが、そこでやりたがる。駐車場も広くて集客にも便利

第三回「課題と理想像」の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

9：交通の利便性

- └ レンタル自転車の台数が増え、返却場所も多いので、観光客の足として人気
- └ 阿久根市内を循環する観光バス（しかも自動運転）もある
- └ レンタルバイク屋も備わっているまち！利用者も多い！
- └ 交通系IC対応になっている（阿久根市交通は全て）
- └ ライドシェア（シェアモビリティ）も充実していて、いつでもどこからでも移動が容易。スマホ一つで予約から決済まで完結
- └ レンタカーも豊富、カブリオレ（屋根を開閉することができる車）も揃っていて海岸線も走りたくなる。
- └ 交通の利便性向上のためにグリスロ（拠点回遊）が自動運転。トゥクトゥク（EVバイク）でまち中走り回る仕組み
- └ シェアサイクル
- └ レンタカーの代案としてカーシェアリング（平日は公用車としている車を土日一般開放。使用したい人は会員登録）

10：情報発信PR不足

- a └ 探している情報にすぐ辿り着けるし、写真も情緒溢れていて感動さえ覚える。
- b └ 観光に関わる事業主達が個々でアップ情報ひとまとめで見れるポータルサイトがある。→それは対応する事業者がいる。→県の観光サイトなどと連携されている！
- └ 旅行予約サイトのランキングでは阿久根が常にトップになっている。
- └ インターネット内に阿久根の情報が溢れている！
- └ 「アクネ、うまいネ、自然だネ」のサイトに各店舗情報（飲食、アクティビティ、お土産、宿泊etc）を吸い上げて抽出（商工観光課）
- └ 各店には情報発信のお願いをする。
- └ 阿久根ファンクラブ登録（LINEなど）→情報更新の際はお知らせがくる。

そもそも観光サイト掲載の情報が不十分か？
情報更新頻度を上げる、専属スタッフをつける。
阿久根ファンクラブ（LINE）運用、プッシュ通知、プロモーション実施

レポート②

「子ども子育て」ボード

第三回

(赤字が理想像、青字が具体策)

第三回「課題と理想像」の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

1：働く女性のサポート不足

a 市内の企業の福利厚生が整っていて、子育てと仕事が両立できる。

病気の子供がいても休めて職場の理解が深い状態。

b 職場内に子育てマネージャーがいる。

c ケアマネージャーの子育て版＝子育てマネージャーを推進する民間企業が阿久根にある。

「育児は女性がするもの」という概念が無いまち。男性が子育てに積極的に関わるまちという評判に。男性にも育休がある。

「実家屋さん」という職業があっていつでも親子のように子供を看ってくれるし、相談が出来る。

育児の大変さはやらないとわからない。阿久根市として公式に「パパ育児Day」「ママお休みDay」を設ける・・・企業へも周知！

出産前の夫婦で参加するセミナーを開催しているが、もっと周知して夫婦で参加させる
夫婦参加でメリット発生

育児休暇100%取得（男女）
※但し休んでも100%給与保証

このような企業は市として表彰

企業内に子育てマネージャーを設置

「子育てマネージャー育成講座を市役所で行う！

- ・妊娠期間に育児・子育てまでの悩み相談
- ・然るべき相談機関を紹介（市役所、病院、施設など）
- ・人事にも一定権限を持つ

2：学校施設の老朽化

a 小学校低学年の授業が終わっても同一施設内で学童教育がなされている。

b 古い学校施設は取り壊され、超魅力的なデザインと機能が校舎が誕生し、市外、遠くは関東地区から入学希望者が絶えない。

3：マンパワー（教員）不足

4：病児保育施設がない

a 病児保育施設があって専門家が見てくれるので安心！

b 病児保育施設がこども園の隣（又は同じ建物内）にあり安心！

病院施設内に、病児保育施設設置要望を出している

第三回「課題と理想像の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

5：子育て情報の発信不足

- a ㊦「子育てしやすい阿久根」という事実と、体験した人が積極的に発信していて、阿久根で出産・子育てしたいという人が増えている。
- b ㊦移住を考えている人、子育て、出産の場所を考えている人に向けた情報発信がターゲットに共感を与えるカタチがなされている。
- c ㊦5と11：子育て支援サイト、支援策から親子イベント情報がまとめて載っていて、見やすい探しやすいと評判。
- d ㊦妊娠から子育てまで一貫した情報が1箇所になっているガイドブックが阿久根はステキ！といわれている。

㊦情報発信専門部署を作る（PR広報室）地域おこし協力隊、地域活性化企業人

6：子供の居場所の不足

- a ㊦9も兼ねる。子育て中の人が集う場所があり、知り合いになり相談がしやすいし、中高生は勉強できる図書館（それ以外も）が冷暖房完備で快適に勉強できる

㊦図書館建設予定→早急に実施した方が良い！

7：魅力伝達不足

- a ㊦市民全員が阿久根の魅力を理解、実感していて情報発信がすごい！
- b ㊦学校の授業で阿久根の特産品開発というカリキュラムがあり、子供の頃から阿久根の特産品を知り、郷土愛が芽生えている。

㊦社会科見学のカリキュラムの見直し→探究学習の充実

8：金銭面のサポート不足

- a ㊦市外の中高へ通うための通学定期の負担制度がある。

9：学校教育施設の特色顕在化

10：少子化対策子育て施策

- a ㊦出産祝い金が、累進で上がっていく。

㊦出産祝い金・・・長島町と同じく累進的に10万、20万、30万、40万、50万

第三回「課題と理想像の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

11：情報発信PR不足

- a 「子育てアプリがあって施設の混み具合、イベント情報、子育て用品も探せる、買える（配送も）ので便利
- ↳子育てアプリ（施設予約、イベント情報、育児用品の買い物）+母子手帳アプリ合体版！！（育児パパも使える）

12：地域のつながりコミュニティ欠落

- a 「子育てに社会生活に必要な知識、知恵を与えるシニアによるふれあい教室（異世代交流）が充実している。
- ↳社会見学も盛ん。
- ↳子供達は高齢者を尊重しているし、大切に思っている。子供達は自己効力感が強い。
- ↳シニアとの触れ合いカリキュラムを計画する。

13：駐車場整備不足

- a 「中央公園には隣接した駐車場があって便利。
- ↳中央公園に駐車場を！

14：子供のスポーツ教育の充実

- a 「全中学校の生徒は全員部活もしている、設備も充実している。全国大会で阿久根の名前を聞かない大会はない。
- ↳現在、阿久根の中学では部活が減っている（教育委員会にヒアリング）→どうカバーするか？

15：診療医療不足

16：交通の利便性

- a 「都会から移住してきて車が無くても、子供だけ（あるいは親子）で自由に動ける交通網がある、ライドシェア、乗合タクシーetc

17：子育て支援の人材不足

- a 「阿久根出身の人で、保育士になる人が多く、みんな阿久根に帰ってくる。
- b 「保育士が豊富にいる阿久根だから行きたい保育園に行ける
- ↳阿久根独自の保育士加算制度があって、保育士として働くなら阿久根で！となるようにする。

第三回「課題と理想像の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

18：子育てサポート施設不足

19：親子や子供同士で遊ぶ施設不足

a ⊣19も兼ねる。親子で触れ合える体験施設（バーベキュー、キャンプ場）が充実している。

b ⊣雨天時に親子で遊べる場所が充実している。（総合体育館が開放されている）

c ⊣カフェ、室内アスレチック、図書館が1ヶ所にあって子供を遊ばせる間、親はゆっくりくつろげる場所がある。

d ⊣市内の公園にバスケットやサッカーコートがあり、親子や子供同士が無料で遊べる。

e ⊣番所丘公園のゴーカードが日本一長いコースを誇っている。それ以外にも日本一といえる遊具がある。

⊣雨天時に遊ぶ場所をつくる！

総合体育館前に、屋根付広場を整備し、常時解放する！（ウィングドームいずみのようなものを作る！）（薩摩川内市に“センノオト”あり）→理想

⊣番所丘公園の遊戯施設（特長的な大きいもの）があればいい！

20：婚活/出会いを充実させるためにマッチングアプリの利用料助成→（アプリの市への導入を促す）

婚活/出会い系のイベント充実を！

レポート③

「産業振興（海・山）」ボード

第三回

(赤字が理想像、青字が具体策)

第三回「課題と理想像」の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

1：労働環境

- a ㊦農水産業で働きたい希望者が後を絶たない！
 - b ㊦産業の従事者はフレックス制で働いて爽やかな労働環境
 - c ㊦機械化が進んでいて、作業がみんなで分担できている。
 - d ㊦午前中で仕事が終わって午後からは自由時間
 - e ㊦機械化自動化が進み楽に暮らせる。
 - f ㊦林業においてDXが進み、センサーを使わず伐採できる技術が導入されている。
エリートツリー導入によるコスト化が進んでいる。儲かる林業に転化されている。
 - g ㊦副業がしやすいまちとして阿久根、仕事も色々選べる。
 - ㊦機械化は中古で安く導入
 - ㊦水産業、農業
 - ・船全般・・漁業従事者の平均年齢は74歳
引退後に手放すので、それを融通、活用
(総代に頼んでみる、新規就業者には特に優先的に)
→中古品をメンテナンスする業務も新たな需要を生み出すか？
 - ・中古市場で(展示会など) 見つける方法、阿久根市内で見つける仕組み
 - ㊦副業(空いている時間をマッチングさせて) 地域内で労働力を補う・・全産業
- ※事業として動き出している。マッチングアプリとベンダーと打ち合わせ可能！

2：後継者不足、技術伝承危機

- a ㊦どの事業者にも後継者がいて事業継承できている。
 - b ㊦儲かりすぎて子息を外に出さない状態
 - ㊦後継者不足になっている事業者リストを作る・・跡継ぎが今どこで何をやっているか把握
 - ㊦新規就業者は地域おこし協力隊として募集(特校で国が費用負担)
- 3年たったら事業承継
- ㊦特定の農産物だけでなくマルチで農業をやるプレイヤーを団体として育てる。
- 1つの産物では儲けるのは難しい(果樹園は除く)ので数週類の農作物を効率よく作っている。
モデルケースを作り、その理想サイクルを皆で共有する。

第三回「課題と理想像」の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

3：マーケティング、情報発信不足

- a 阿久根にある企業のHPが素晴らしく働く人とのイメージができる。
- b 情報受発信のプラットフォームがある！これを活用できている。
- ↳ SNS（市役所が実施している）+ web（おまとめ情報サイト）
- 市内事業者（各々で情報発信）・イベント実施者（情報サイトで自動発信）
- ※そもそもwebページを持ってない事業者が多い、よって情報発信してない



市役所で作る

- ↳ 情報発信は載せて終わりじゃダメ！Youtubeも見てもらえるような施策（広告）
- ↳ 情報発信専門人材を起用し、専門性を作る

- c 阿久根が市場価格（価格）を左右する、操作する力を持っている。
- d TV、インターネットで阿久根を見ない日が無い（いい意味で）
- e 「阿久根」が売れば、高く売れるので県産品が集まってくる、
その中でも「阿久根」と名乗れるのは超一流

4：若者の起業を支援する仕組みの整備

- a 阿久根市はベンチャー企業の聖地になる。
- b チャレンジする人をしつこい位に市・まち全体で応援する環境！
新しいことの飛び込み、ネットワークに溶け込みやすい。
- ↳ コミュニティカフェを作り、チャレンジしたい人が集まる環境を作り、近くにチャレンジショップを運営する。

5：強い商品ブランド育成

- a 阿久根の単品ブランド化ができている
- b 他エリアより抜きん出ている。
- c 鯛を1匹つればその日暮らせるブランド力
- d 阿久根産が一つの確立したブランドで、市場では高値で売れるし、引く手あまた。
(現在も伊勢海老、ウニはブランド化している)
(さつま甘海老、ひげ長海老、タカえび)
- ↳ クラウド化に関し、ジビエ肉をブランド化する。「ジビエ祭り」をやるべし！
- ↳ ブランド管理はしっかり！マニュアル整備チェック！「華あじ」など

6：温暖化要因

7：イノベーションが起きる場所お金を使う場所

- a 阿久根で過ごすには1日じゃ足りない。2泊3日は絶対必要
- ↳ 2泊3日滞在が必要なモデルケースをコンテンツの組立で設計する
- ↳ 朝ごはん食べるところ必要。実験期間設けてみては？

8：環境配慮不十分

9：機器のコストが高い

10：地域内で完結しない事業ネットワーク

第三回「課題と理想像」の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

11：収入の安定化

a 農地の集約化、生産性向上により阿久根の農業は九州一儲かる。

b 阿久根で「これさえ作れば、食いっぱぐれない」という商品で「10銘品」と呼ばれる。

農産、水産業、林業（またたび）→ブランドになり得る商品ピックアップ！

12：土地問題（荒れている、使える土地なし）

a 不動産が借りやすい（流動的）

13：温暖化や鳥獣被害対策

a 鳥獣捕獲事業者だけに任せるのではなく被害農家もハンター免許を持っていて固体を減らしている（捕獲鳥獣が阿久根のジビエブランドとして売れに売れている）

鳥獣捕獲事業者のテクノロジー活用が進んでいる。農家もモチベーションが高い。

b 森林経営管理制度と森林環境譲与税を活用して、管理できていない山林について市が仲介役となって森林所有者と林業経営者をつなぐシステム構築が出来ている。

14：人口減による消費量減少

15：地理的不利や土地の少なさ

16：低所得

a 給料が良すぎて人が集まり過ぎる！

17：働き手不足、後継者

a 給料が良すぎて、人が集まり過ぎる！街全体で労働者シェア＝期間工タイプで生計が立てられる。

阿久根に来さえすれば仕事がある状態。（よりどりみどり）やりたい仕事に就ける！

18：組織化・体制化できない

a 一個人の事業主でも情報発信力もあるし、市場影響力がある。

b 必ずしも組織力に頼らないでも大丈夫。

19：新規事業参入へのハードル高い

20：企業や商品ブランド安定化

a 阿久根といえば「食」と10人中9人答えるくらい市として統一イメージ（ブランド）を押し出せている。

21：発信力不足（魅力はある！）

a 生産者自らが情報発信力を備えている。

レポート④

「住民サービス（DX）」ボード

第三回

(赤字が理想像、青字が具体策)

第三回「課題と理想像」の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

1：庁内DXの遅れ

a ㊦完全ペーパーレスを実現している。

㊦今まで導入してきたシステムでやれるが、問題は運用の意識付けと、その仕組み導入、※特別な予算は不要

ex) 決裁の電子化etc㊦一方で参考様式（根拠資料）との照合が、現在は紙の方が分かりやすい㊦タブレットの導入etc

b ㊦らくらく窓口、証明書発行サービスが進化を遂げて、決済までできるので、ワンストップサービスになっている。

2：住民の手続き時の手間、煩わしさ

a ㊦諸手続きが自宅や思いついた場所で、即簡単に24時間できる。

b ㊦住民は手作業なく、マイナンバーカードを読み取り、庁内窓口のAI（ロボット）と口頭でやり取りをすれば手続きが完了。

質疑チャットで完結、名前住所を何度も聞かない。

㊦窓口で（職員に代わり）AIロボットが諸手続きや対応をしてくれる仕組みを導入（マイナンバーカード他）

c ㊦コンビニ交付のみならずスーパーでも交付できる。来庁してもマイナンバーカードさえあれば、一切記入の必要がない。

通常役所で行っていた手続きも、流通小売店etcでできる仕組みがある（＝サテライト役所）

㊦マルチメディアステーション・マルチコピー機（コンビニ）を支所、スーパー、公民館への設置検討

※このマシーン開発、販売元を調べる

3：配達/買物難民

a ㊦フードデリバリーサービスも阿久根上陸。希望すればどこにでも配達してくれる仕組みがある。

㊦「個配システム、買い物代行サービス」を事業化㊦民間委託

b ㊦ドローンでの配達網が確立されている。市内の小売店はすべてネット通販をやっていて住民の利用も進んでいる。

c ㊦住民（健康不安のある人）の嗜好や体調等を把握した上で、バランスの良い食事を送る仕組みがある。

第三回「課題と理想像」の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

4：ネット予約・支払い・キャッシュレス

- a ㇿスマホで公共施設予約の空き状況確認でき、予約から決済まで完了
- b ㇿ阿久根の小売店では個人認証が入店と同時になされ買い物した後の支払いは後日、自動的に個人にまとめて請求される。
- c ㇿ役所ではQRコード決済を含むあらゆるサービスが使える。
 - ㇿ大手QRコード決済会社以外を役所で使えない理由あるか？

5：デジタルデバイド対策

- a ㇿ高齢者や健康不安のある方の自宅の近くまで出張する移動型サテライト役所が阿久根にはある。
 - ㇿ移動型サテライト市役所カー導入（DMN他）

6：病院のネット予約、リモート診療対策

- a ㇿオンライン診療の仕組みが進んでいる、スマートデバイスで健康チェックもなされている。
 - その情報は医療機関に提供され、遠隔でも適切な診断が可能な状態。薬も送ってくれる。
- b ㇿ病院間で治療に関する情報が共有されていて、今まで遠方まで行かざるを得なかった検査、治療を近くの病院で受けることができる。
 - ㇿオンライン健診を導入させる！ベンダー紹介

7：高齢者の移動手段

- a ㇿ乗り合いタクシーが時間やルートに縛られず、AIオンデマンドで希望時間、ルートを適切に判断し快適に人を運んでいる（自動運転で）

第三回「課題と理想像」の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

8：マイナンバーカードの保有促進や安全性の啓蒙

- a ㊦免許証と同じように持ち歩く。マイナンバーカードの普及率は、ほぼ100%
- b ㊦病院ではマイナンバーカードをお持ちですか？と問いかかけが当たり前になっている。
- c ㊦マイナンバーカードに認証の仕組みが阿久根でも採用されている。

9：コミュニティー/マッチング

10：情報発信不足

- a ㊦9と10：SNS上で住民が交流している。それが対外的情報発信になっている。

11：ごみ収集の仕組み

- a ㊦ゴミの仕分けはゴミ収集BOXが自動で行い、人が手作業で仕分けすることがない。

12：施設・娯楽不足

- a ㊦観光地や公共施設のwifi整備が完璧！
- b ㊦家から出ずともメタバースetcを活用し行きたい場所、見たいものにアクセスできる。

レポート⑤

「移住・定住」ボード

第三回

(赤字が理想像、青字が具体策)

第三回「課題と理想像の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

1: 土地が高い、自由に使えない

a ㊦遠方の住んでいる家所有者にライブ配信にて実態を説明する仕組みがあり、実情を把握してもらっている。

㊦＜ライブ＞撮影、配信のための人材、機材が必要（企画/都市建設課）→地域おこし協力隊を専門人材として適用（プロダクション出身者）

㊦まずは写真を撮り、周辺住民の声をレポートにし、解体に関する案内チラシを同封の上送る！

（実際に送っているが半分位不着）25%位は解体に至るが、お金の問題で躊躇

※特定空き家（周囲に迷惑をかける家）

b ㊦AIが阿久根の空き家の実態把握していて、ライブ配信中にAIが予想価格を画面上に提案する

㊦空き家ニーズが多い地区（問い合わせが多い地区、条件）を統計データをとって

その地区の空き家調査を改めて行う

空き家バンク
空き店バンク

情報発信の部署
広報戦略室

c ㊦不動産の売買に関するマッチングサイトがあって便利（民間企業）

2: 移住の魅力情報発信不足

㊦市のHPやSNS配信の専門セクションがあり常に魅力的なコンテンツが更新されている。→PRネタ、メディアリリースネタを常に局に渡しておく。

㊦関東キー局の枠を買って番組として放送、提供している。

㊦阿久根がメディアで取り上げられない日がない。

㊦移住者自身が阿久根の魅力発信に積極的！SNS、note、コンテンツが溢れている。

㊦移住サイトがあって移住に関する全情報が集約されており、コンテンツマーケティングSEOマーケティングがうまくいっている。うまくいけば検索上位

3: 不動産情報が脆弱

a ㊦市内の不動産情報（民間の物件全部載っている：空き家、空き地）を集約したサイトがある。

b ㊦大手不動産情報サイトに阿久根の物件がほぼ載っている。

c ㊦遠方からもオンライン内覧できる

㊦宅建協会と話をして不動産情報を大手検索サイトに載せる！

㊦載るようになったら検索時に動画も見せるようにする。

第三回「課題と理想像の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

4：まちづくり意識が希薄

- a ㊦阿久根でもリノベーションが進み、空き物件から次々とスモールビジネスが生まれている。
- b ㊦住民のイベント参加意欲が旺盛で、参加した情報発信のパワーがすごい！行政がやらずとも住民自らがすごい発信者になっているのでその勢いがまちづくりのパワーにも活かされている。
- ㊦まちづくり空き家リノベからスモールビジネス→たからのまちマネージャー

5：移住受け入れ準備体制が不十分

- a ㊦移住受入専門部署があり、移住希望者の相談窓口になっており移住コーディネーターがいる。→この存在は市民皆が認識している。
- ㊦移住コーディネーター/コンシェルジュは設置すべき（特別交付税措置で350万）（住むところ、働くところ、育てるところをコーディネート）
- ㊦市営住宅をお試し住宅にできないか？→国土交通省の許可をもらう⇒現在古い住宅はこれから解体していく方向？
お試し移住住宅をつくろうとすると、1/2が国、残りの1/3が県のリノベ補助？←要確認
- b ㊦移住体験で住める家も海が見えて、風光明媚な場所にありお試し移住者が感動する。
- c ㊦移住者へのwelcome文化が素晴らしい阿久根！

メモ

情報発信が上手い自治体と下手な自治体の特徴として

自治体別ウェルビーイング指標調査結果の話

㊦橋本市、福岡市の比較

第三回「課題と理想像の間にあるギャップを埋める具体的な方法について協議

6：移住に関する支援制度が不十分

└移住者へのヒアリングに基づいて必要な支援がなされている。

7：交通の利便性

└レンタカー、カーシェアリングが多数ある、移住希望者にはレンタカー無料貸出。移住就職者には社有車貸与があり、私的利用可能。

└各施設（商業施設含む）が走らせている民間送迎用バスのネットワークを活用し、一大交通網が築かれている。

└住む場所がコンパクトに集約されていて買い物も娯楽も学校も役所も全て徒歩圏内。

└ガソリンスタンドがレンタカー貸し出しをする！

8：住む家高い、少ない

a└賃貸住宅家賃補助（今：年齢40歳未満で地元企業に勤める→理想：条件撤廃）、住宅取得補助金増し！阿久根は理想なベッドタウン！

└住んだだけで家賃補助！

9：空き家対策

└空き家全てを対象に解体補助が出る。

└0円物件が続々と上がってきて在庫豊富

└空き家活用事業には金融機関からの手厚いサポートがある。

10：仕事の問題（職種、賃金、他）

└市内の事業者を魅力的に紹介するyoutube番組を持っている。

└ハローワーク（市内案件）に掲出されているものは全て大手の就職案内サイトに出ている。

└地元で働く人はその待遇に満足している。

└地元企業が魅力的であり且つ魅力的に見せる術も持っている。

└就職案内を出す必要ある企業には広告費補助。副業したい個人と副業を受け入れたい企業の実態調査（今から始める）

11：子育て、教育（学校）体制が弱い

└お試し保育園留学をめぐみこども園を筆頭に多くのこども園が実施している。（キッチハイク）

└子供達はその能力（一人一人に合った）を開花させるためのプログラムがまち全体の文化としてある。

└子供が成人するまでの手厚い支援や教育の素晴らしさが有名で安心して子育てできる阿久根。

└大自然を活かした魅力的教育プログラムが用意されている。

第四回ボードについて

次回は、第三回で上げて頂いた「理想と現実を埋めるための具体的な方法」
（第三回討議内容の赤字が理想、青字が具体的な方法）について現実的な方法を見出し、
実現可能な手法を導いていきます。

どうやったら、皆さんが上げた具体的な方法が現実的になるかを考えてきてください。

※実現のための予算（国の補助金調査）、期間、実施可能なベンダー、他の自治体事例、裏付けデータ等

また、第二回で討議した理想像（報告書内赤字部分）についても、それを実現するための具体的な方法がまだ意見として上がっていないものがあります。
もし、思いつけば、追加で考えて頂けるとありがたいです。

どうぞ宜しくお願い致します。